

Ski Fusion (スキーフュージョン) 参加報告記



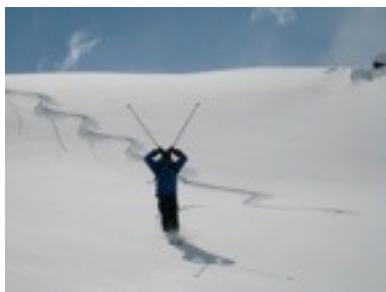
2011年5月14日 CMHジャパン住川

2011年4月1日から11日までお客様とご一緒にSki Fusionに参加してきました。

CMHでは2年前よりSki Fusionというプログラムを組んでおり、ヘリスキーの日は普通に朝からヘリスキーに一日出かけ、ツアースキーの日は朝と夕にヘリで山中に送迎してもらうだけで、後は全て自分たちの脚力で自分たちの滑る分を登ります。

今回はひょんなことから日本人10名ひとグループで、CMHカリブスで行われるこのSki Fusionに参加することになり、私も同行させてもらうこととなりました。普段ほとんど

シールとは縁のない私にとって、ツアースキーはCMHのお客さま3名と参加したバト



ルアビー (<http://battleabbey.ca/>) 以来、9年振りです。その時は体力面でかなりしんどかったのが、今回は4ヶ月前からしっかりと走り込んで準備をしました。体験記を簡単にまとめてみましたのでご覧下さい。

Ski Fusionって？

CMHのSki Fusionは1グループのみの設定でロッジ宿泊は7泊です。そのうち4日間はヘリスキーを、3日間はツアースキーを行います。ロッジには同じ日程で他に3班、33人のヘリスキーゲストがいらっしゃいます。

Ski Fusionグループにはお客様10名に2人のガイドが付きます。毎日、ガイドが天気や雪の状況を判断し、ヘリスキーで出かけるのか、ツアースキーに出かけるのかを決定します。

ツアースキーの日はロッジからヘリコプターで山の中腹まで運んでもらい、その後はシールを付けてツアースキーに出かけます。一日の終わりにはヘリコプターが迎えに来てくれてロッジまで帰ってきます。

ヘリスキーとツアースキーの2種類のウィンタースポーツを1週間のうち両方お楽しみいただけるコースがSki Fusion(スキーフュージョン)です。

4月1日からの11日間コース

エア・カナダのカルガリー直行便を利用して4月1日に成田を出発し、翌日カルガリーからCMHカリブスへ移動する。カルガリーからレイクルイーズまでのハイウェイ1号線は辺り一面真冬の様相で、この先一週間の吉兆を感じた。スキー初日となる4月3日(日)はツアースキーをすることに。ヘリスキーへ出かけるか、ツアースキーにするかは基本的に前日までに決めておく。もちろん天候の急変などで朝になって予定が変わることも考えられるが、今回は結局予定通りツアースキーとヘリスキーを一日おきにする事ができた。ツアースキーの日はまず、朝食時に用意されている昼食用のサンドウィッチ、ジュース、果物、水筒、菓子類、シール等をデイパックに詰めることから始まる。デイパックの中にはもちろんスコップとプローブ(ゾンデ棒)もあり、2人に1台のトランシーバーも必携だ。



ヘリをタクシー代りに山中へ

ロッジの前からヘリで約10分、標高2,500mの高みへ一気に運ばれる。気温は-9度、天候は快晴でほぼ完璧なコンディション。スキー初日に行われる大事なルーティーンの一つ、ビーコンとプローブの取り扱いの練習は100mほど滑り降りてから平らなところで行った。Mammutの最新式デジタル・ビーコンは、液晶画面に矢印で表示される埋没者の方向とそこまでの距離を表す数字に注視するだけで良いので、以前のものに比べて誰でも容易に使いこなせるようになった。プローブの使い方、スコップでの効率の良い雪の掘り方など、実際のビーコン探索を含めて一時間以上かけてそれらを練習。そしていよいよ深雪スキーの始まりだ。はやる気持ちを押さえながらカリブスの斜面に飛び込んで行く。先頭に行くのはガイドのブライアン、しんがりを務めるのはもう一人のガイドのボブ。そのガイドに前後を挟まれ平均年齢63才の我々10人が滑ることになる。途中2回ほど止まり、標高差800mを滑降。正直、皆さんが上手なのにびっくりした。深雪に慣れている人でもヘリスキー初日の一本目はヨタヨタしたり転んだりするものだが、皆、安定した滑りをしている。10人中7人の人がCMH初体験なのに。



滑降の後はシールを着けて登行

先頭に行くブライアンが適当なところでおもむろに止まる。気持ちの良い滑降はここまでで、今度はスキーにシールを着けて登行の開始だ。シールはブラックダイヤモンド社製の幅100mmのもので、使用していたアトミックのヘリダディ(センターで99mm幅)でも十分に足りる。準備が出来た人は給水したり、スナックを食べたりしながらしばしの休憩。スキー、ストック、シール、水筒等、必要なギアを全てCMHで用意してくれるので日本から持って行くものはスキー靴とウェアぐらい。テレマークスキーもある。



今回使用したビンディングはディアミール社のイーグル。ヒールの高さはフラットを含めて4段階に可変。標高差500mほどを、途中2回ばかりの休憩をしながら1時間半ほどで登る。先頭に行くガイドは休憩の都度最後尾のガイドとラッセルを交代。先ほど滑ったのと同じ山だけれど、一つ尾根筋を越えた隣りが次に滑るコースだ。

青空と白い斜面と静寂

朝一番で私たちが山の中へ運んでくれたヘリは今頃、どこか違う所でヘリスキー組の3班を運搬するのに忙しく飛び回っているはずだが、音など全く聞こえない。登行の途中、皆で一緒に息を潜めてみた。風が「そよ」と吹く音さえ聞こえない完全無音の世界にしばし浸った。現代人にはたいへん貴重な体験だと思うので、CMHへ行った時にはぜひこの Sound of Silence の世界を楽しんで欲しいと思う。

ガイドが導くルートはさすがに無理がない。急でも緩くもなく、ちょうど良い斜度でしっかりと高度を稼いで行く。ペースが速かったら「もっとゆっくり」と頼み、息がきつくなって来たら「休もう」と頼む。仰ぎ見れば青い空と白い雲、遠くにはどこまでも雪と岩のカリブスの山々が続く。震災後3週間での海外スキーにはいささか後ろめたい気持ちで日本を発したが、私たちはここで思いっきり楽しもうと思う。非日常に自分を置くことで、日常をより良く見ることが出来るのは、いつもCMHに来るたびに強く思う。



自由なペース設定

最初にヘリから降ろされた地点からの滑降と、400~500mほどの登行2回分の計3本が本日の滑走となった。ヘリを使ったツアースキーの利点は、まず朝の一本目が登行ではなく滑降から始まることだ。そして「何時までどこどこへ行かなくては...」ということがないので、自分たちの好きなペースで行動が可能なこと。疲れたら休むし、景色が良かったら足を止めて目と身体の保養をする。体力が余ってもっと滑りたければもう一本くらいなら時間的に可能だ。満足した丁度よいところでヘリに迎えに来てもらえば、10分弱のフライトで居心地の良いロッジまでひとっ飛びだ。山の中の大自然と快適なロッジの環境をいとも簡単に結びつけてくれることが出来るのは、この文明の利器ヘリコプターのお陰だ。

ツアースキーとヘリスキー



このようにして1、3、5日目にツアースキーをして、どの日も2回の登行を含めて3本ずつ滑った。ヘリスキーの日はヘリがランチを運んでくれ、飲み物は常にヘリにあり、おやつタイムも午前中に一度あるので昼食や飲み物を自分たちで背負う必要がない。気が楽だが、1台のヘリで4班を回すのでツアースキーに比べてヘリの回転が速い分気ぜわしくなる。2日目は11本滑って標高差は6,380m、4日目は12本で7,330m、6日目は9本で6,340m、7日目は午前中の2時間で4本、2,960mの滑走量となった。



カリブースロッジヘリパッド

まとめ

今シーズンのカナディアン・ロッキーは3月に入っても気温が低く、降雪もコンスタントにあり、私たちはとても良い一週間に恵まれた。滞在中の降雪量はトータルで35cm、最高気温は0度から+2度、最低気温は-6度から-13度だった。このくらいの天候はこの時期よくあるが、一週間ずっと安定して続いたことはラッキーだったと思う。スキーの原始はツアースキーで、ヘリスキーは逆にその最たる対象の位置にあるものかも知れない。その両極端のスタイルでカナダの大自然の中を存分に滑ることによって、スキーの奥深さを改めて知った思いがある。毎年Ski Fusionが設定されるのは3月下旬以降で、人気があるためすぐに一杯になってしまうが、興味のある人はぜひご参加を待っています。

今回のお客様が作られたアルバムがあるので、こちらもぜひご覧を。

<http://www.imagegateway.net/p?p=GWAeRecWpve>

